

女子短期大学生の環境意識

梅澤香代子・宮川香織・廣田道夫

〔キーワード〕 アンケート調査, 環境意識, 環境教育, 環境科学, 女子短期大学生

1. 初めに

環境省を始め多くの企業が色々な角度から一般市民の環境意識についてのアンケートによる調査を行っている¹⁾。しかしながら、調査対象が一般市民である事が多く、環境意識と環境教育との関連については必ずしも明確ではない。今回若い女性の環境意識と環境教育との関連という観点から、2009年度の青山学院女子短期大学1, 2年生（家政学科主体）を対象として、環境に関する講義（生活環境論）の講義内容の定着度、環境意識、環境問題に関する知識などをアンケート調査と講義後の感想（記述式）を書いてもらう事により考察した。

2. 講義内容

教科書として「文系のための環境科学入門」（藤倉良，藤倉まなみ著，有斐閣コンパクト，2008）を用いた。本書は環境問題を科学的に平易に述べた良書である。特にオゾンホールがなぜ極地で発生するかという事，なぜ二酸化炭素が地球温暖化の原因になるのか噛んで含めるようにわかりやすく説明している。この点は最初に結論ありきという書き方をしている教科書が多い中で際立って優れている。またそればかりでなく，環境問題の原因，対策，リサイクルの意味等についても非常にわかりやすく書いてある。また時に応じ環境問題に関するDVD，資料を用いた。

3. 環境問題への関心と大学入学以前の学校での環境教育との関係

最初の講義の時，学生に自分の思いつく環境問題を複数回答で記述式によるアンケートをとった（表1）。ただし，サンプル数が70前後と少ない事をあらかじめお断りする。表からわかるように多くの学生が地球温暖化（気候変動）に関心を持っている。ついで，水質汚濁，廃棄物処理，大気汚染，酸性雨，オゾン層，生物の多様性等が続く。2009年以前，あるいは2010年度の学生に対するアンケートでも地球温暖化がトップであり，他の上位7項目については順序の変動はあるものの上位にある点では変わらない。またその中でも最も興味のある問題はなにかという質問に対しては，地球温暖化（回答数52）がトップで，地球温暖化の環境への影響の実態，その対策としての二酸化炭素削減法，実効性，京都議定書，あるいは高速道路

表1 興味のある環境問題

(回答数 75)

項 目	人数	項 目	人数
地球温暖化	60	土壌汚染	6
水質汚染	51	エネルギー問題	4
森林減少	37	リサイクル	3
大気汚染	33	土壌汚染	3
酸性雨	30	公害	3
オゾン層	27	騒音	2
廃棄物処理	26	資源の枯渇	2
砂漠化	18	ダイオキシン	2
生物の多様性	6		

表2 大学入学までに受けた環境教育

(回答数 69)

項 目	人数	項 目	人数
地球温暖化	46	水質汚染	5
酸性雨	15	騒音	3
リサイクル	10	大気汚染	3
オゾン層の破壊	9	汚染物質	1
公害問題	9	自然災害	1
ゴミ処理問題	8	ハイブリッドカー	1
自然破壊	6	ビオトープを作成	1
条約, 条例, 会議など	5	pH	1

の無料化が果して二酸化炭素削減に繋がるのか、外国ではどのような方策をとっているか等を知りたいという種々の問題意識のもとにたつての興味である事が回答から伺えた。また自分たちで出来る環境への取り組み法についてより知りたい(10)、ゴミ問題(6)等が続いた。

また大学入学以前に受けた環境に関する学校教育(表2)について問うた所、地球温暖化は変わらずトップであるが、その他の項目は学生の関心と微妙にずれている。水質汚染や大気汚染に対し関心が高いのは恐らく新聞、テレビなどメディア等からのコマーシャルも含む情報や、大学が渋谷に近く交通量が多い事による実感によるためと思われる。また廃棄物処理に興味があるのも生活実感に基づく。また公害についての教育がされた割に、実際の関心が薄いのは、現在緊急の問題が無いためであろう。

4. 講義内容の定着度

4-1 アンケートによる調査

講義の定着度を知るために講義で取り上げたもののうち22項目について『よく知っている』『知っている』『聞いた事がある』『知らない』という4段階で回答してもらった。まとめたものが表3である。表で最後の2項目、砂漠化と生物の多様性については講義で触れなかったが

表3 次の事柄についてあなたはどの程度知っていますか。

(回答数 69)

項 目	よく知っている	知っている	聞いた事がある	全く知らない	無効
硫黄酸化物	2	24	43	0	
酸性雨	20	46	3	0	
pH	14	34	21	0	
フロン	11	38	12	0	
モントリオール議定書	7	25	37	6	
紫外線	19	47	3	0	
オゾンホール	8	49	11	1	
水俣病	15	43	11	0	
水銀中毒	7	34	24	4	
イタイイタイ病	15	43	11	0	
カドミウム汚染	5	22	35	6	1
騒音公害	16	47	6	0	
リサイクル法	9	44	12	3	1
3R	23	39	6	1	
地球温暖化	34	35	0	0	
温室効果ガス	17	39	11	0	2
化石燃料	10	41	17	0	1
バーチャルウォーター	2	9	27	29	1
ばいじん	2	16	33	17	1
生体濃縮	6	13	29	20	1
低炭素社会	2	6	33	27	1
エコ家電	12	41	12	0	2
砂漠化	14	43	12	0	
生物の多様性	5	21	37	6	

一般常識としてどの程度知っているかの尺度として含めた。「よく知っている」、「知っている」を講義の内容を理解しているもの、「聞いた事がある」をあまり理解していない、「知らない」は講義を欠席ないし全く理解していなかったものとする。大学入学以前に学んだ事やマスメディアで取り上げる言葉についてはかなり理解しているが、二酸化硫黄などの化学用語、条約、バーチャルウォーター等の新しい概念を理解するのはなかなか難しい事が伺われる。講義で取り上げなかった砂漠化と生物の多様性については聞いた事があるまでを含めると殆どの学生が知っており、講義以外の場面での学生が興味を持ってそのような情報に触れている事が伺われる。これは表1で環境問題として取り上げた学生が少なからずいる事と一致する。

これらアンケートのうち非常に気になるのは、最初のアンケートに地球温暖化を環境問題として挙げた学生のうちオゾン層の破壊による地球温暖化と書いた学生が少数ながらおり、試験の際にも教科書持ち込み可にも関わらず、地球温暖化についての記述式問題に対し、同様にオゾン層の破壊により地球温暖化が起こると回答した学生がいた。一度間違った情報が刷り込まれるとそれを訂正するのが難しいと実感した。

また表3で知らないあるいは聞いた事があるという回答の多い項目たとえば“ばいじん”について、講義直後に書く講義の感想の中で、初めて知ったと書いた学生が多数いたが、一度の講義では新しい言葉が学生自身の意識に定着するのは難しい事がわかる。

4-2 講義後の感想

講義の終了後に毎回その日の講義について必ず感想ないし意見を書いてもらったが、なかなか興味ある回答をいつも得た。

例1:

レジ袋を有料にすべきかどうか問うた所下記のような結果が得られた。レジ袋を有料化するのは、ゴミとして捨てられる事が多いレジ袋を使わず、何度も使えるエコバックなどを使ってゴミを減らすという事はすべての学生が理解している。そのため、レジ袋の有料化に賛成の学生は60、反対の学生は3、回答なしが9で、殆どの学生が賛成している。また実際に利用しているスーパーでは有料化しているという回答が22、エコポイントないし値引きで還元しているという回答が10あり、レジ袋は実質的にも有料化されている所が多い事を示す。ファッション性の高いエコバックが市販されているから、使っているという回答が13あり、単にお題目だけでは動かない学生気質が伺える。ただ問題点として、エコバック自体も資源を使うので、レジ袋と比べてどちらが資源の使用量が少ないか検討すべきだと指摘する学生もいた。有料化する事により環境意識が高まるという意見が10、有料化しその代金を環境活動に使うべきだという意見が3あった。これは環境税の発想にも繋がり興味深い。またコンビニやスーパー等でアルバイトをしている学生は、レジ袋を渡す側から見ると、レジ袋を辞退する客が半数ぐらいであるとか、毎日大量のレジ袋を見るとこれが最終的にはゴミになる事に恐怖を覚えるという回答もあった。レジ袋ばかりでなく過剰包装などについてもこれからは考えていく時代であろう。

例2：

リサイクルの問題について一般的な説明の後、具体例として、ペットボトルについても講義した。PETボトルのリサイクルの問題点について述べてもらった。回答を見ると、回収量は増えているが、使用量も増えているため、ゴミとしての量は減っていない事、リサイクルは資源とエネルギーの節約を目的としているが、PETボトルのリサイクルにはかなりのエネルギーを投入する事、中国に輸出され、国内業者が安定的に回収ペットボトルを入手できないなどの問題点をよく理解していた。さらに自分の生活に即したいくつかの問題点の指摘があった。ふたと容器の分別が面倒（17名）、ボトルに色がついているなど、再利用できないものがある（3名）、リサイクルに出すからと無駄にペットボトルを買ってしまう。

5. 日常生活に於ける環境意識

5-1 省エネルギーの家庭電化製品

省エネルギーの家庭電化製品を挙げてもらった所下記のようなものが上がった（表4）。

エアコン、テレビ、冷蔵庫が上位に挙げられたのは、テレビコマーシャルの影響も大きいと考えられる。これらの製品は、「省エネ」や「エコ」をキーワードに大々的にCMを放送しているため、私たちの記憶にも自然と残るようになっていないかと思われる。さらにエコポイントが得られる事も影響しているであろう。照明器具に関して言えば、電球型蛍光灯やLED電球が発売当初より低価格になり、東芝が従来の白熱電球の生産中止を決めた事から、照明器具についての認知度は現在ではさらに上がっていると思われる。またIHクッキングヒーターに関して言えば、熱効率は良いが、電気を用いるので、送電ロス等を考慮すると、ガスを直接の熱源とするガスコンロに比較してどちらが省エネルギーになるかは議論の分かれる所である。恐らく、オール電化イコール省エネルギーという電力会社の宣伝もあると考えられる。

また廃棄する時リサイクル費用を負担する電化製品について複数回答で問うた所、正しいものが上位であり、正答率は高い（表5）。しかしながら、電気乾燥機以下の製品は、負担しなくても良い。これは粗大ゴミとして有料であるものを、リサイクル費用が含まれていると混同しているためかもしれないが、詳細は不明である。

表4 学生の知っている省エネルギー家庭電化製品

（回答数 69）

項 目	人数	項 目	人数
エアコン	28	ストーブ	3
テレビ	24	掃除機	3
冷蔵庫	24	IHクッキングヒーター	2
洗濯機	9	ハロゲンヒーター	1
照明器具	4		

表5 リサイクル費用を負担する電化製品

(回答数 69)

項 目	人数	項 目	人数
冷蔵庫	59	電気乾燥機	35
テレビ	56	電子レンジ	35
洗濯機	55	ガスストーブ	34
エアコン	50	電気炬燵	18
乗用車	50	カセットデッキ	16
パソコン	47	蛍光灯	2

5-2 エコ活動の実践

学生及び家族は環境にどのように配慮した生活をしているかという設問に対し次のような回答が得られた（表6）。

表からもわかるようにゴミの分別意識はかなり高まっている。また普段の生活の中で少し意識すればすぐに実践できる（水をこまめに止める、使わない電気を消すなど）事を行っている家庭が多いのも特徴で、環境への意識の高まりを感じられる。

すすぎが1回の洗剤の使用、エコカーやエコ家電の選択については最近の傾向でもあり、企業側の環境への配慮も見事出来る。企業としてのイメージアップにも繋がるため、今後ますますこういった製品が増えてくると考えられる。

また家庭ゴミの捨て方についても調査したが生活している都市の規模に関わらず、捨て方に大きな差異は無かった。

6. 考 察

以上の結果から、学生の環境問題への関心は多方面にわたり、自分の生活と関連させて考えている事がわかった、また環境に関する学校教育だけでなく、コマーシャルを含むマスメディアの影響が大きい事が伺われる。環境省や自治体が呼びかけている家庭でこまめに出来る環境対策への取り組みは成功していると言える。具体的には触れなかったが学生の基本的科学的知識の欠如により講義内容を難しく感じるという感想が非常に多く、大学入学以前のよりいっその科学教育が重要であると考えられる。そう言う点で特に高校の理科教育のカリキュラムが文系用、理系用に別れている事に大きな疑問を感じる。

引用文献

1) 環境省ホームページ

<http://websearch.e-gov.go.jp/cgi-bin/common.cgi>

環境意識についての各自治体等の取り組みを紹介している

表6 学生及び家族のエコ活動

(回答数 69)

家庭ゴミ
・ゴミの分別を守る (24名), 古紙は資源ごみに出す (2名)
・ゴミの減量: リサイクルできるものはリサイクルする (6名), エコバッグの使用 (5名), レジ袋の削減 (4名), ゴミをなるべく出さない (2名), ごみはなるべく小さくまとめる (1名), ペットボトルをなるべく買わず, 水筒を持つ (1名), トレーなど汚れているものは洗って捨てる (1名)
電気, ガスの使用量を減らす
・電気の無駄使いをしない (18名)
・エアコン; あまり使わない (7名), 設定温度を28度にする (5名)
・夜9時以降はストーブをつけない (1名)
・使わないコンセントは抜く (5名)
・テレビはリビングに1台 (1名)
・エコ家電を選ぶ (1名)
・お風呂は時間を空けずに入る (1名)
水
節水: 水を出しっぱなしにしない (10名), すすぎが1回の洗剤を使う (1名)
水の再利用: トイレ, 洗濯に (3名), 散水に雨水を利用 (1名)
水を汚さない: 油をそのまま捨てない (2名)
車
・エコカーに乗る (1名)
・なるべく車を使わない (3名)
その他
・料理の作りすぎに気をつける
・ラップなどは環境に良いものを選ぶ

Summary

Study of Ecological Awareness of Women's Junior College Students

UMEZAWA Kayoko, MIYAGAWA Kaori, HIROTA Michio

Ecological awareness and behavior and knowledge about environmental problems of young women were studied at Aoyama Gakuin Women's Junior College. Further examined was the degree of students' understanding of environmental topics after finishing a course of environmental science.

It was shown that students are interested in not only global warming but also many other topics that are taught at school or reported by mass media. Most students intend to include ecological principles in their lives as much as possible. Lecture on environmental science gives students fundamental knowledge in this regard. The necessity of science education at an early stage of school education is stressed.

Key word: Questionnaire survey, Ecological awareness, Environmental education, Environmental science, Women's junior college students

青山學院女子短期大學

紀 要

第六十四輯

平成22年12月 刊

JOURNAL
OF
AOYAMA GAKUIN
WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

NO. 64

DECEMBER, 2010

目次

脳死・臓器移植をめぐる公共的議論と法の役割

.....河見 誠.....1

詞的情景論・(1)——「海辺の別れ」という詞場——

ミュージシャンを読むためのストラテジとしての詞作品研究の課題

.....おかざきかずお.....1

個人語彙規模の測定に関する一考察

.....高野 嘉 明.....9

EFL Wordlists: The Need for a Modern Learner Lexicon

.....Joseph Phillips.....27

女子短期大学生の環境意識

.....梅澤香代子、宮川香織、廣田道夫.....37

日清戦争開戦前夜の思想状況

——金玉均暗殺事件をめぐる一考察——

.....小林瑞乃.....45

バイオ燃料に関するアメリカの動向について

.....信澤久美子.....65

英国産業連盟と1920年代不況

——デフレーションと構造調整——

.....秋富創.....77

身体毀損の噂に見る社会の表象

.....渡辺良智.....93

先行経験が意思決定における後悔に及ぼす影響

.....武田美亜.....111

現代ロシア社会における子どもの養育をめぐる諸問題

..... 村 知 稔 123

習得の時短のための救急蘇生法トレーニング・プログラムの構造解析

..... 渡 部 かなえ 141

ピースメーカーキングとキリスト教

..... シェロ マイク 151

フォーマル・スキーマとしての5文型と英文理解

..... 黒 岩 裕 159

食事場面での母親の行動認識と、感情対処方略としての食行動が、

摂食障害傾向に及ぼす影響

..... 田 中 志 帆 169

青山学院女子短期大学研究成果一覧 187

CONTENTS

OKAZAKI Kazuo	
On the Poetical Background of Popular Song	1
 TAKANO Yoshiaki	
A Note on the Measurement of Personal Vocabulary Size	9
 Joseph Phillips	
EFL Wordlists: The Need for a Modern Learner Lexicon	27
 UMEZAWA Kayoko, MIYAGAWA Kaori, HIROTA Michio	
Study of Ecological Awareness of Women's Junior College Students	37
 KOBAYASHI Mizuno	
The Logic Behind a Justification of the Sino-Japanese War	
—An analysis of Japanese newspaper claims over the assassination of the Korean	
reform politician Kim Okgyun—	45
 NOBUSAWA Kumiko	
Biofuel Problems in the U.S.	65
 AKITOMI Hajime	
The Federation of British Industries and the Depression in the 1920s:	
—Deflation and Structural Adjustment—	77
 WATANABE Yoshitomo	
Images of Society Seen through Body-parts Rumors	93
 TAKEDA Mia	
The Effects of Prior Experience on Regret in Decision-Making	111

MURACHI Toshimi	
The Problems Surrounding the Upbringing of Infants and Children in Contemporary Russia	123
WATANABE Kanae	
An Efficient Program for Basic Life Support Training Designed to Shorten the Time for Mastery	141
Mike Sherrill	
Peacemaking and Christianity	151
KUROIWA Yutaka	
Reading Comprehension and Five Sentence Patterns as a Formal Schema	159
TANAKA Shiho	
The Influences of Mother-Child Mealtime Interaction during Childhood, and Emotional Eating on Eating Problems among under Graduate Women	169
~~~~~	
KAWAMI Makoto	
Public Discourse on Brain Death and Organ Transplantation: the Role of Law .....	1

編集委員

宮田雅智 中井章子

藤本勝義 大野芳材

池田孝一 浅見均

石井孝彦

執筆者（五十音順）

秋富 創 准教授

岡崎和夫 教授

河見 誠 教授

黒岩 裕 准教授

小林瑞乃 専任講師

シエロマイク 准教授

高野嘉明 教授

武田美亜 専任講師

田中志帆 准教授

信澤久美子 准教授

※廣田道夫 教授

Phillips, Joseph 准教授

村知稔三 教授

渡部かなえ 教授

渡辺良智 教授

※梅澤香代子（本学非常勤講師）

※宮川香織（本学家政学科副手）

※印は共同執筆者

平成二十二年十二月十日発行

青山学院女子  
短期大学紀要 第六十四輯

編集  
発行

青山学院女子短期大学  
東京都渋谷区渋谷四ノ四ノ二五

印刷 丸善株式会社